

みんなが できる 獣害対策

第5回 シカの事 知っていますか？

シカの生息数は、栄養状態がよければ毎年15%程度増えるといわれています。

ところが、奈良公園では生息数がほとんど増えていません。その理由は、生息数が約1,000頭と多く十分な量のエサがとれないからです。

この事例から「エサの量によってシカの生息数が決まる」という原則が学べると思います。



性格

- ・臆病で、人に遭遇すると一目散に逃げる。
- ・「先が見通せないこと」「足場が悪いこと」を嫌がる。

食べ物

- ・牧草やドングリ、葉など1,000種を超える植物を食べる。

食欲

- ・シカの口が届く高さ(2m)以下の植物の葉や小枝はほとんど何でも食べる。
- ・1日に3kg食べる。

活動時間

- ・昼夜を問わず、活動する。(昼間は警戒して、人前に姿を現しません)
- (奈良公園など、人に慣れた場所では昼夜問わず活動します)

運動能力

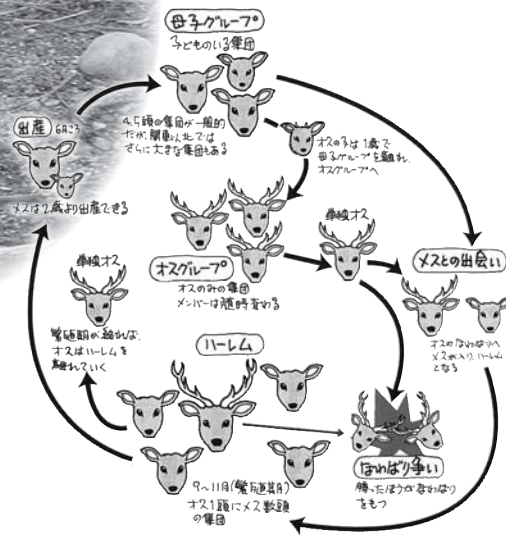
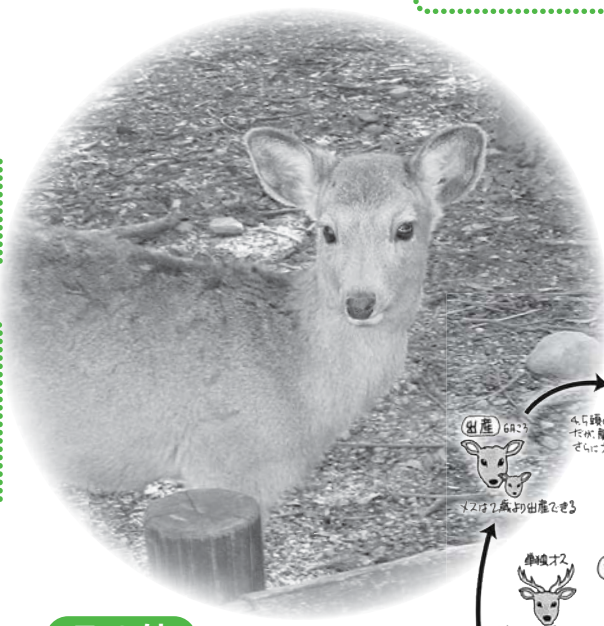
- ・1m50cm以上の障害物を飛び越える。

視力

- ・色盲(全て白・黒に見える)

生態

- ・2歳で初産(5~6月)
- ・平均寿命は4歳程度
- ・最高齢はオス12歳、メス15歳程
- ・一夫多妻



その他

- 足跡：4本指 跡が残るのは前2本
- フン：俵型が多い。



Q1 シカ対策のポイントを教えてください

A1 冬場のエサを減らすことです

自然界に冷蔵庫はありません。野生の獣は人(食物を貯蔵できる)と違い、毎日エサを探す必要があります。秋に1,000頭のシカが生きていけるエサがあったとしても、冬のエサ量が100頭分しかなければ、シカは100頭以上には増えません。1年の中で最もエサが少ない冬のエサ量が、シカの生息頭数を決めるのです。つまり、冬場のエサを減らすことが最大のシカ対策なのです。

重要!シカ対策をするならこの順番で!

- 1 シカについて知る
- 2 緑草帯を減らす

※緑草帯：冬に見られる青草の広がり

- 3 防護柵(ネット)をつくる

人が何もしなければほとんどの草は冬枯れします。ところが、秋に刈り払いを行う事によって、冬場に青草の広がりができるのです。この「緑草帯」はエサが少ない冬場のシカの大切な食糧です。シカ対策の基本は冬場のエサを減らすこと。つまり、「緑草帯」を減らすことが重要です。

1 シカについて知る まずは相手を知ることが大切!

- ①今回の連載を読む。
- ②詳しい人の話を聞く。
- ③本や講演会でシカについて知る。

2 緑草帯を減らす お金はかかりません 刈り払いの時期を変えるだけです

- ①なぜ冬場に緑草帯があるのか考える。

→ほとんどの緑草帯は、人が手を加える事で生まれます。「なぜ緑草帯があるのか?」その原因を考えてみましょう。

- ②お盆前に刈り払いを終わらせる。(図①)

→刈り払いの時期を早める(お盆頃まで)ことは、冬場の緑草帯を減らし、枯れ草を増やすことにつながります。

お盆以降に刈り払いを行うと、緑草帯ができる可能性があります。シカの冬場のエサをつくりだす時期の刈り払いは極力避けましょう。

図①

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
シカのエサ	野山にエサとなる草が多い			エサが一番少ない			
シカを寄せ付ける草刈り		草刈りすると…		柔らかい草が茂ります			
シカを寄せ付けない草刈り	草刈り	秋の草刈りひと休み		エサとなる青草がない			
				冬枯れ			



※イノシシの被害が多発する地域では状況に応じて草刈りが必要なこともあります。

耕作放棄田にひそむシカが…

3 防護柵(ネット) 補助制度があります ※柵の材料を購入する前に獣害・ブランド対策室へご相談ください

- ①「柵に近づくのが一苦労」という柵をつくる。

→柵の外側に通路を確保することで人が行き来できます。それにより、人のおいや気配を漂わせることができます。柵は人の行き来を妨げる場所につくらないようにしましょう。

- ②高さは2m以上にする。

→地面から2mではなく、シカがジャンプする位置から2mの高さにしましょう。(田畑が道路側より低い場合は、高くする必要があります)

- ③柵は境界線につくるものではありません。

→「林に隣接する場合は1m手前につくる」「電気柵は水田内を通す」など柔軟に考えてつくりましょう。(シカが安心できる茂みや林からわずかも遠ざけてつくことで心理的な障壁が生まれます)



Q2 シカによる被害について教えてください

A2 「森林破壊」「農作物被害」「ヤマビルの増加」「交通事故」などあります

シカによる森林被害は全国で4,000ha以上といわれています。枝葉や樹皮を食べ稚樹を食いつくすことで、森林を草原に変えてしまったり、希少な高山植物を壊滅させてしまうこともあります。

農作物についても、ムギの新芽を食べるなど、いなべ市内でも多くの農家に深刻な被害を与えています。

こうした被害を防ぐためにも **冬場のシカのエサを減らすことを意識しましょう**

今回 シカ特集を行いました。 次回 市の制度紹介を行います。

写真提供：近畿中国四国農業研究センター (P2右上写真)

参考文献：JA静岡中央会「みんなで取り組もう!鳥獣被害対策」監修/井上雅央 製作/農文協
農文協「山と田畑をシカから守る」著者/江口祐輔・金森弘樹 イラスト/トミタイチロー

問 藤原庁舎 獣害・ブランド対策室
T 46-6060 F 46-6319